

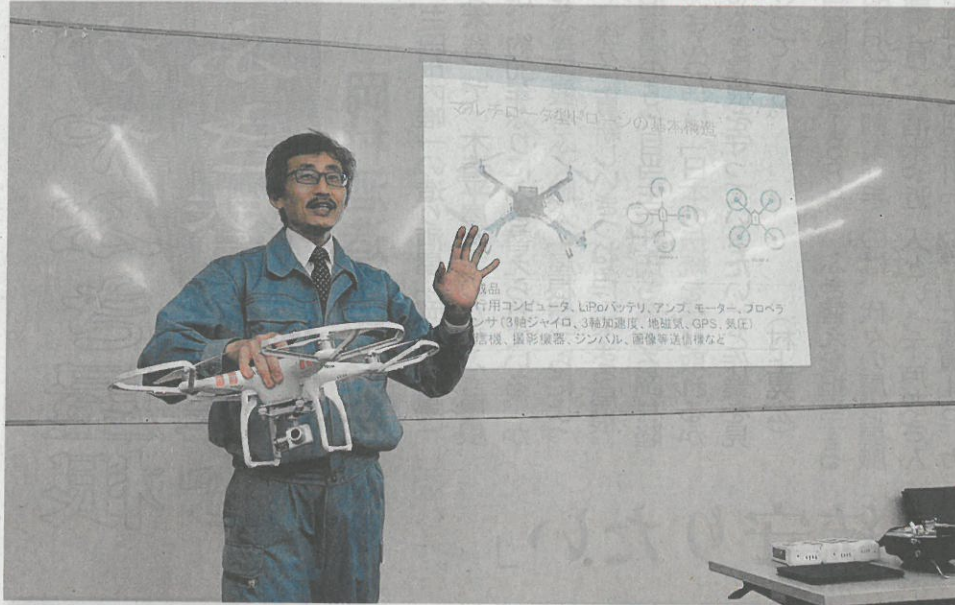
ドローンを見せながら講演する菱田聡さん＝ブルボンビーンズドーム

三木でドローン講習会

「危険性認識し利用を」

小型無人機「ドローン」を使った公園の維持管理の可能性を探る講習会が12日、三木市志染町三津田のブルボンビーンズドームであり、公園管理を自治体から委託されている業者らが参加した。操縦体験などのほか、ロボットシステムの研究開発をする菱田伸鉄工業（堺市）の菱田聡社長（54）が「ドローン開発の現場と活用事例」と題して講演した。（3面参照）

2/13 (三木版)



参加者が操縦体験も

開発者が講演

ドローン開発に取り組む菱田さんは、橋の点検作業を行うプロジエクトなどに携わっている。講演では、ドローンの定義や種類、語源などを説明し、長所としては「垂直離着陸ができること」、短所では「飛行時間が短いこと」などを挙げた。菱田さんは「技術の熟成も大切だが、ルールづくりや社会の共通認識などが必要」と解説。開発作業中の操縦ミスからドローンが暴走する動画を見せながら「利用する上では危険性を認識してほしい」と語った。

最後には参加者が実際に操縦を体験する時間もあり、恐る恐る機体を上昇させた。加古川市公園緑地課職員の高澤英昭さんは「思っていた以上に操縦しやすかった。危険性を認識した上で使えば、良い道具だと思う」と話していた。

(堀内達成)